

		SAPIX	日能研	四谷大塚 早稲田カデミー	浜学園 希学園
カリキュラム 全体の特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・復習よりも単元を進めることに軸足を置いている点に特徴がある。 ・各学年カリキュラムにおいて、どのような位置づけにある講座なのかを理解して臨むと効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス帯によって使用するテキストが異なり、難易度と情報量の上下差が大きい。 ・4年生、5年生の負担は少ないが、6年生は4月以降の学習成果に大きく関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの学年も単元的にはかなり幅広い内容を扱う。 ・復習だけではなく4月以降の先取りも行う。 ・広く浅く学習する分、家庭学習の差が学習成果に直結する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい分野・単元の講義～問題演習、解けるかどうかの確認まで、塾ですべてをやってくれる ・春期講習期間は17時以降の一般コース(平常授業)は行われない。
4年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目復習よりも新しい単元を進めるカリキュラム。 ・理科や社会では4年生後半で学ぶ単元の導入にあたる内容も扱う。 ・4年生の最初から、受験カリキュラムをどんどん進めていこうとする方針が表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの科目も基本的な内容を復習する構成。 ・春期講習から塾通いを始めた子も十分についていける内容になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の初期段階にしてはかなり幅広い内容を扱っている。 ・復習よりも4月以降の学習をみすえた土台作りの講習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲の主要単元を復習する。 ・春期講習から塾通いする子も合流しやすい組み立てになっている。 ・いずれの科目も学習への興味づけを意識した内容になっている。
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容との重複はほとんどなく、4月以降に同じ内容が繰り返されることもない。講座に参加しない場合は該当内容を家庭で別途補う必要がある。 ・中学受験における土台作りの重要性を考えれば参加した方が良い講座。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的小さいので、学力上位層にとっては刺激の少ない内容。 ・春休みから入塾する子も多いことを考慮している。 ・授業の受け方、ノート作りなど学習の基本を点検しておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数は進捗がかなり速いので、講習中に足場を固める。 ・理科、社会は4月以降の基礎作りを行う。予習シリーズで先取りしておくとも4月以降有利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月からの学習が上手くいかなかった子は復習立て直しができる。 ・順調に来ている子には不要なものも多くなる。家庭でテーマを決めて、自己学習に時間を割くのが有効。
5年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・算数は、5年の重要単元である「図形」「数に関する問題」の基礎事項を効率よく押さえる。 ・国語は読解法を身に付けるべきジャンルを一通り扱う。 ・理科は「太陽」、社会は「環境問題」を扱う。いずれも入試頻出だが5年で扱うのはこの講習のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの科目も、4年生の内容と2～3月単元の復習になっている。 ・比較的負担は少ないが、理科については知識量が多くなり、植物分野を苦手としている生徒は苦労する場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みまでの復習をしつつ4月の重要単元について先取りする構成。 ・理社は2月、3月内容をさらに深めて理解する。 ・国語は「説明文」「物語文」で、難関校頻出の「随筆」はまだ扱わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月以降の学習内容につながる単元を優先的に復習する構成。 ・算数は数の性質を深め、国語は難関校を意識して様々な文章ジャンルに取り組む。 ・理社は基本の復習に加え正答率が低めの問題も取り扱っている。
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・算数、国語は4月以降を見すえ、重要知識と考え方の理解と納得を深めておきたい。 ・理科と社会の単元は、講習期間を過ぎると再度学習するチャンスはなかなかやってこない点に注意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・負担が軽いうちに5年生の前半の先取りを少し行っておくのが得策。 ・理社の学習を通じて知識暗記の方法を見つけよう。 ・家庭学習の差が学力差につながる期間なので過ごし方に注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の「食塩水」「売買損益」はつまずきやすい単元なので、4月以降に備えて春期中に理解を深めておきたい。 ・5年生の学習は立て直しが難しいので、春休み中に少しでも先取りしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数や国語は4月以降の学習単元へのつながりを確認した上で、授業に臨むと効果的。 ・理科は計算問題の解き方について基礎をおさえる。
6年生	講習の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・算数は入試頻出の単元を幅広く扱う。国語も主要な文章ジャンルの入試問題練習になっている。 ・理科は5年までの知識整理。同じ内容は夏以降まで出てこない。 ・社会は「社会・産業史」「文化史」と、特定のテーマに沿って歴史を縦に俯瞰する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試頻出の単元を網羅的に復習する内容。 ・4月以降の学習成果を積み重ねる土台をつくるため、総整理を行う意図。 ・理科や社会は入試頻出の知識を網羅的に扱う。社会は地理全般のおさらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3月の復習と4月の先取りの形で、入試頻出の単元を幅広く扱う。 ・理科は入試頻出単元のほとんどを、社会は歴史全般に加え公民分野も扱う。 ・いずれの科目も扱う単元の数が非常に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年までの内容について知識と技術の整理を目的としている。 ・算数は単元的な偏りがあるので家庭での調整が必要。 ・理科は網羅的な構成、社会は選択制。
	ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの科目も、4月から本格化する応用演習、複合的な問題への対応力を高めることが主眼にある。 ・これまで学習してきたことの総復習を通じて、単元複合的な問題への対応力を高める意識で臨みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月以降に重要単元が続く算数は、講習内容の積み残しは致命的。 ・受験生として成績逆転を狙うなら春休みがラストチャンス。自分が補強すべき単元は何なのか3月上旬には見定めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が順調な生徒にとっては効率の良い復習期間。 ・苦手単元を多数積み残したままの生徒は、単元が移り変わる授業についていけず消化不良になりやすい。 ・春休みを迎えるまでに基本知識を理解定着させておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習単元と自分が苦手とする単元が一致しているかを確認する。すれがある場合は家庭学習計画を早めに立てて対策をとりたい。 ・志望校別特訓のコース資格を得るため、4月末の合否判定模試に向けた対策も必要になる。